

鹿沼市立菊沢西小学校 スタートカリキュラム

基本的な考え方

◎幼児期の教育について理解していることが前提！！

- そのために・・・①学校全体・全教職員で共通理解をする。**(4月の職員会議の協議事項に入れる。)**
②保護者にもスタートカリキュラムを周知し、安心感につなげる。**(HPを活用する。)**
③近隣の幼稚園や保育園等の思いもふまえて作成したり、情報を共有したりする。

◎子どもの「安心」「成長」「自立」の視点を盛り込んだ計画に！！

安心：子どもの「できる」を生かした計画

- ・「上れない段差」や「下りたくない段差」はできるだけ作らない。
- ・幼稚園や保育園で立派な最上級生として活動した中で生まれた、「やりたい」「わたしにもできる」という意欲を大切にしたい計画を作る。

成長：幼児教育と小学校教育の「学び」をつなぐ計画

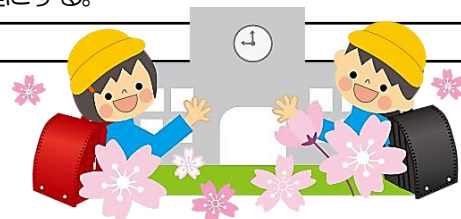
【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)参照】

- ・子どもが、必要感に基づいて自主的に取り組もうとする「学びの芽」を育む。
- ・子どもたちの思考やこれまでの経験を生かした計画を立てる。

自立：生活科を中心とした合科的な計画

- ・幼児期の「遊びの中の学び」と似た生活科特有の教科性を生かす。
- ・どの教科のどのような要素が含まれ、どのような力が付くのかを明確にする。

1年生のために配慮すること・具体的な手立て



授業

- 入学後の活動に様々なグループ活動を多く取り入れる。
- 児童一人一人の良いところや小さな成長を褒め、児童の自尊感情を高める。
- 1単位時間を子どもの実態に合わせて、**教科横断的に扱ったり、時間配分を工夫したりして、効果的に構成する。**
※『15分間×3』や『20分間+5分間(休憩)+20分間』のようにモジュールを活用してもよい。
- 学年の枠を取り外した授業や活動を取り入れ、異年齢の子どもたちとの関わりが深まるようにする。
※2年生との合同授業(生活・体育・MIM等)・登校班編成・交通安全教室・なかよし班共遊 等

係活動や当番活動

- 給食当番は、子どもの意欲を生かしてできることから始めるようにし、**仕事に対する意欲と責任感を高めていく。**
- 係活動は、教師の助言をもとに、児童が入学後の生活から必要だと考える係を作る。
- 朝の会・帰りの会は、児童の意欲や実態に合わせて、4月中旬から下旬を目安に指導を始める。

日常生活の指導

- 学習面や生活面における学校生活のルールについて、**園生活の中で身に付けたことを生かしながら**継続的に指導し、定着を図る。
- 教室内のもの、ロッカーや机・いす、トイレや水道、靴箱や傘立ての整理整頓の時間を意識的に確保する。
- 保健室や特別教室、体育館や校庭等の利用についても、適宜継続的に指導する。

教職員間の連携

- スタートカリキュラムについての全職員での共通理解を図る。
- 担任を中心に、指導を簡潔かつ明確に行うとともに、支援は繰り返して行う。そして、児童の良い変化や小さな成長を思い描き、今後の指導や支援に生かす。
- 学級担任以外の教職員の協力を得られるような学校体制づくりを行う。
- 入学前の情報交換会や**指導要録から**得た情報を全職員で共有し、必要に応じて対応を検討したり、配慮したりする。

家庭との連携

- 保護者に安心してもらえるよう「スタートカリキュラム」の趣旨について伝える。
- 毎週の学年だよりで、翌週の連絡だけではなく、可能な範囲で学校や学級であったことや様子を伝える。
- 必要に応じて、連絡帳や電話等でその日の子どもの様子(怪我や病気などの異常などについて)を伝える。

幼稚園・保育園との連携

- 少人数や単独で幼稚園や保育園から入学してくる子どもたちが不安を感じないように、前年度に来入児学校参観や学校行事等に招待する。
- 入学前に幼保小の情報交換会を行うとともに、**指導要録にしっかりと目を通し、入学後の指導に生かす。**

関係機関との連携

- 必要に応じて、こども総合サポートセンターや特別支援学校の未就学教室等の関連機関と入学前に情報交換を行ったり、相談・助言をお願いしたりする。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）

◎幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）とは

- ・到達目標ではなく、方向目標である。
→「できなくてはいけない」ではなく、「こんな姿が見られたらいいな」という考え
- ・10の項目をそれぞれ個別に取り出して指導するものではない。
→遊びの中で育っていくもの
- ・3歳、4歳のそれぞれの時期にふさわしい指導の積み重ねが大切である。
→5歳児の時期だけで育むものではない
- ・全ての子どもに一様に育つものではない。
→人間一人一人が違うから教育はおもしろい



幼小連携の
重要なツール

5歳児終わりの姿は1年生入学の姿と同じと考える！

環境や内容が大きく変わる幼児教育と小学校教育の接続が一番難しい！

幼児期の終わりまでに育ってほしい
姿（10の姿）の共有が必要

◎幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）の各内容

(1)健康な心と体

幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

(2)自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならぬことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

(3)協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

(4)道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

(5)社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

(6)思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

(7)自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを意識するようになる。

(8)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

(9)言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

(10)豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を動かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。